

第1学年 国語科学習指導案

指導者 ■■■■■ (授業者)
■■■■■
■■■■■ (T2)

- 1 単元名「 すきなばめんをしょうかいしよう 」
教材名「 うみへのながいたび 」 (教育出版)

2 単元の見積

- ・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
[知識及び技能] (1) ク
- ・ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
[思考力、判断力、表現力等] C (1) エ
- ・ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C (1) オ
- ・ 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

3 指導事項に合致した言語活動とその特徴

指導事項に合致した言語活動として、「好きな場面を紹介すること」C (2) イを位置づけた。場面の紹介をするためには、場面を選び、なぜその場面が気に入っているのかを考える必要がある。また、内容の大体を捉えるだけではなく、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することが重要になる。

このことから、好きな場面を紹介するという目的意識をもつことで、「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる」「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる」という目標が達成できる。

4 単元について

(1) 教材観

「うみへのながいたび」は、白くまの親子が海まで長い旅をする過程を書いた文章で、白くまの兄弟の成長と、それを見守る母ぐまの様子がわかりやすく書かれた教材である。だれが何をしたかを確かめながら読んでいくことがねらいである。また、白くまの生態を伝える写真が、児童の興味をひくとともに、場面の様子や白くまの気持ちを想像する活動を助ける手がかりとなる。写真を見ながら、白くまの気持ちを想像してふきだしに書く活動を組むことによって、次の「きこえてきたよ、こんなことば」の活動にも生かされる。物語の写真と文章を関連付けながら、登場人物である白くまが何をしたのか、時系列で確認する活動も大切にしていく。場面ごとに1枚の写真が掲載されているため、児童にとっても文章を写真と一緒にたどりながら読むことができる。また、()や「 」でくくられて表記された内言語や会話表現を音読することで、白くまの親子の様子や心情を想像することもできる教材である。

(2) 児童の実態 (学年：男子31名 女子36名 計67名 学級：男子16名 女子18名 計34名)

	好き・得意	どちらかという 好き・得意	どちらかという 苦手	苦手		
1. 国語の学習は好きですか。	62% (21名)	26% (9名)	6% (2名)	6% (2名)		
2. 気持ちを込めて音読したり、考えを話したりすることは得意ですか。	67% (23名)	9% (3名)	12% (4名)	12% (4名)		
3. 文章を読んで考えることは得意ですか。	62% (21名)	20% (7名)	12% (4名)	6% (2名)		
4. 自分の考えを文に書くことは得意ですか。	43% (14名)	27% (9名)	18% (6名)	12% (4名)		
5. 出来事や自分の考えたことをノートや日記などに書くことができますか。	34% (11名)	45% (15名)	12% (4名)	9% (3名)		
6. 日記や作文を書くときに、困ったことはありますか。	あります		ありません			
	52% (17名)		48% (16名)			
7. 「あります」と答えた人 どんなことに困りましたか。 (複数回答可)	①伝えたいことを表す言葉が思いつかない。			8名		
	②書き方のきまりが難しい。			8名		
	③何を書いたら良いかわからない。			7名		
	④詳しく書くのが苦手。			8名		
8. わからないことがあったら、どうしますか。	先生に聞く	友達に聞く	家の人に聞く	習い事の先生に聞く	自分で調べる	そのままにしておく
	38% (13名)	29% (10名)	3% (1名)	3% (1名)	21% (7名)	6% (2名)

本学級の児童は、文章を書いたり、音読をしたり、自分の考えを発表したり、どの学習においても意欲的に取り組む児童が多い。「国語の学習は好きですか。」という質問に対しては、30名が「好き」「どちらかという好き」と答えている。しかし、平仮名を読むこと・書くことに難しさを感じたり、文章を読むことに対して苦手意識をもったりしている児童も数名いる。「は」「を」「へ」の表記や、促音、濁音の正確性に関しては不十分である児童が多い。

「気持ちを込めて音読したり、考えを話したりすることは得意ですか。」という質問に対しては、26名の児童が「得意」「どちらかという得意」と答えているが、8名の児童が「苦手」「どちらかという苦手」と答えている。言葉を語のまとまりとして捉えられておらず、 ずつ平仮名を音として音読している児童もいる。登場人物の様子を丁寧に取り上げ、気持ちを込めて音読をする良さに気付くことができるようにしたい。また、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて指導をしていく。

「文章を読んで考えることは得意ですか。」という質問に対しては、28名の児童が「得意」「どちらかという得意」と答えているが、「どちらかという苦手」「苦手」と答えている児童が6名いる。また、「自分の考えを文に書くことは得意ですか。」という質問に対して、10名の児童が苦手意識をもっている。そのため、考える視点を明確にしたり、難しさを感じている児童には選択肢を提示したりする必要がある。「わからないことがあったらどうしますか。」という質問に対しては、「先生に聞く」「友達に聞く」「自分で調べる」と答えている児童が多い。児童同士で考えを交流する場を設けたり、学習したことを振り返ることができるようにワークシートや掲示物の蓄積を大切にしたりする。

9月に学習した「けんかした山」の教材では、指導事項に合致した言語活動として、「紙芝居作り」を設定した。紙芝居を作る活動を通して、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができることをねらいとして取り組んだ。場面ごとの絵と文章を丁寧に読み取り、紙芝居にすることによって場面意識が生まれ、絵と文章を関連付けながら考える力が少しずつ身に付いてきている。

(3) 指導観

本単元では、「うみへのながいたび」を音読しながら、時間的な順序をおさえることによって、ストーリー展開を把握する。さらに、文学的な文章表現の効果を感じながら、場面ごとにある写真をもとにして登場人物の白くまに寄り添うような「読むこと」の活動を展開する。

本校の研究仮説の「広げ・深める場を充実させる」という手立てから、本単元では「好きな場面を選んで紹介する活動」を取り入れた。好きな場面を選んだり、発表する場を工夫したりすることによって、自分の思いや考えを豊かに表現できるようになると考える。

第一次では、「うみへのながいたび」を読み、物語全体の大体の流れをつかむことができるようにする。教師が「紙芝居」を使って読み聞かせをすることで、場面ごとにある写真に注目し、場面意識をもって授業に取り組むことができると考える。学習の最後には、自分の好きな場面を友達に紹介することを伝える。また、好きな場面の紹介文を図書室に掲示することも伝え、全校児童に好きな場面を紹介するには、どのような文章が良いかを考えていくことを意識して取り組ませたい。目的意識をもつことで一人一人の学習意欲につながり、自分の思いや考えを豊かに表現しようとする姿が見られるのではないかと考える。他者と考えが異なる場合でも、様々な考えを受け入れ、認めていけるような温かな雰囲気作りを大切にしていきたい。

第二次の前半では、写真と文章を関連付けながら、登場人物や場面の様子を想像して読めるようにしたい。9月に学習した「けんかした山」で取り組んだ紙芝居を生かし、場面ごとに丁寧に読み取りをしていく。ワークシートに本文を載せ、「穴埋め形式」にすることで、場面の様子や登場人物の行動がわかる言葉に着目できるようにする。「百日」や「二年半ばかり」等、時間の経過を通して、白くまの兄弟の成長を感じられるようにもしていきたい。また、白くまの親子がどんなことを話しているのか、白くまになったつもりで考えを広げられるように、写真の登場人物に「ふきだし」を入れてセリフを書き込めるようにする。ペアで役割演技に取り組むことによって、場面の様子や登場人物の行動への理解がより深まると考える。「誰が、何をしたか」を場面ごとに把握することを繰り返し、登場人物の行動を具体的に想像することができるようにしたい。

第二次の後半では、好きな場面を紹介するために、写真を選んだり、紹介文を書いたりする。紹介文は、選んだ写真を画用紙に貼り、裏側に<①選んだ場面の内容 ②選んだわけ>を書くことができるワークシートを用意する。場面の内容や好きな理由を文に書きだすことを困難に感じる児童もいるため、場面を選ぶ思考ツールとして、ピラミッドチャートの活用を取り入れた。場面写真を見ながら選んでいく中で、どんな場面があり、なぜ好きなのかを焦点化できるようにする。また、伝えたいことをメモに書く活動を通して、自分の考えを明確にしたり、紹介文を書くことへの抵抗感や困り感を減らしたりしていきたい。

好きな場面の発表では、「ジグソー法」を取り入れる。まず、好きな場面が同じ児童同士が集まって紹介（エキスパート活動）をする。同じ場面を選んだとしても、好きな理由が同じとは限らない。その違いに気付き、他者との捉え方や価値観の違いを理解できるようにしたい。次に、好きな場面の写真が異なる児童が集まって紹介（ジグソー活動）をする。自分とは異なる考えを聞くことで、自分の好きな場面の捉え方を大切にしながら、友達の好きな場面や捉え方も認められるようにしたい。

本単元において、学びの過程で困難さを感じる児童においては、教科書本文と写真の関連する箇所に、担任やT2と一緒に線を引いて確認をしたり、掲示物やワークシートを振り返ったり等、支援をしていく。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 ((1) ク)	①場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (C (1) エ) ②文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 (C (1) オ)	① 進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、考えた言葉を発表しようとしている。 ② 学習の見通しをもって好きな写真を選び、それを選んだ理由と合わせて考えようとしている。

6 指導と評価の計画 (12時間扱い)

学習過程	時間	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法等
一次 (見いだす)	1	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居で範読を聞き、どのような旅なのか想像する。 教師の好きな場面の紹介文を見る。 学習計画を立て、単元の見通しをもつ。 場面をわける。 	[主体的に学習に取り組む態度] ① <態度・発言等>
二次 (自分で取り組む)	2～8	<p>㉞ ○ばめんの しろくまのことを考えて、ふきだしにかこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面ごとに読み取る。 誰が何をしているのか、場面の様子や登場人物の行動を本文から探す。 写真の中の登場人物になったつもりで、言葉を考える。 役割演技をする。 「誰が」「何をしたか」を考える。 場面ごとに好きなところを考える。 	[知識・技能] ① <音読・発言・役割演技等> [思考・判断・表現] ① <ワークシート・発言・役割演技等>
(広げ 深める)	9 (本時) 10 11	<p>㉞ すきなばめんを しょうかいしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で選んだ好きな場面の写真を1枚選ぶ。 「好きな場面の様子」と「選んだ理由」をメモに書く。 紹介文を書く。 発表の練習をする。 好きな場面が同じ友達同士で紹介をする。(エキスパート活動) 好きな場面が異なる友達同士で紹介をする。(ジグソー活動) 	[思考・判断・表現] ② <ワークシート・発言等> [主体的に学習に取り組む態度] ② <ワークシート・作品・発言等>
三次 (まとめあげる)	12	<ul style="list-style-type: none"> ふり返しをする。 	[主体的に学習に取り組む態度] ① <ワークシート・発言等>

7 本時の指導 (9/12)

(1) 本時の目標

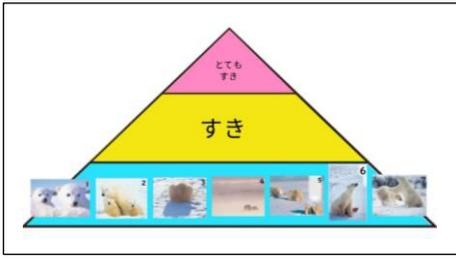
- ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。
[思考力、判断力、表現力等]
- ・学習の見通しをもって好きな写真を選び、それを選んだ理由と合わせて考えようとしている。
[学びに向かう力、人間性]

(2) 展開

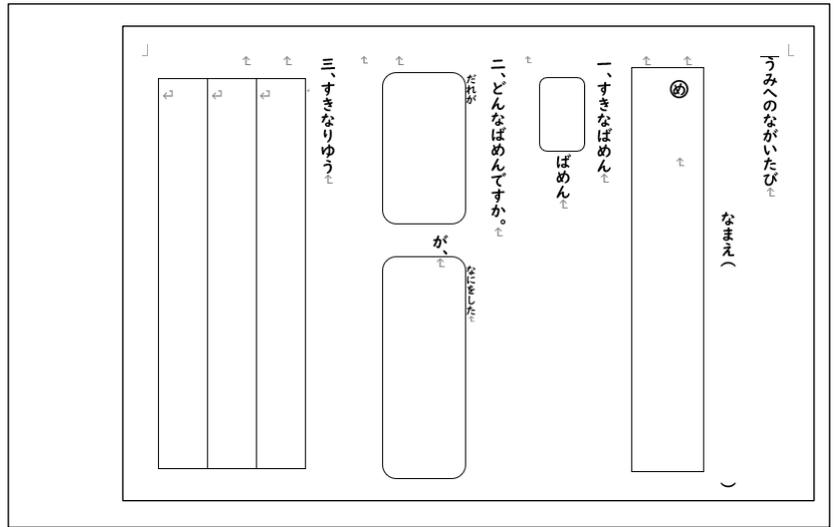
過程 時配	学習内容と学習活動	指導・支援 (○) と評価 (◇)	T2の動き	備考
導入 5分	1. 本時の課題をつかむ ・物語の流れを確認する。	○学習計画表を用いて見通しを持たせる。 ○児童が振り返りやすいようにそれぞれの写真に番号をつけておく。	机間指導	学習計画表 ピラミッド チャート 教科書
展開	㊦好きな場面を選び、紹介するためにメモをかこう。			
10分	2. 好きな場面を選ぶ ・教師の見本を提示する。 ・クロームブックのピラミッドチャートで好きな場面を選ぶ。	○ピラミッドチャートのやり方を教師が提示する。 ○どんな場面かわからない児童は、掲示物やワークシートを振り返るよう支援をする。(T2)	個別指導	クロームブック
5分	3. 好きな場面をメモに書く ・「だれが」「何をした」 2つの項目から考えていく。 C: 白くまのきょうだいが 穴から出てきた C: 母さんぐまが おすぐまの前に立ちふさがった	◇学習の見通しをもって好きな写真を選び、それを選んだ理由と合わせて考えようとしている。 [主体的に学習に取り組む態度] <ワークシート・発言等>	個別指導と 机間指導	ノート 教科書 ワークシート
10分	4. 好きな場面の理由をメモに書く C: 白くまが、目をまんまるにしてはじめてのせかいを見ているのがかわいいから。 C: 兄弟が仲良く楽しそうだから。 C: 自分だったら、百日も歩くのは大変だと思ったから。	◇「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 [思考・判断・表現] <ワークシート・発言等>	個別指導と 机間指導	
5分	5. 書いたメモをペアで紹介し合う ・紹介の仕方を提示する。(T2)	○紹介の仕方を提示し、何をどのように取り組むのかを明確にする。	紹介提示 机間指導	
まとめ 10分	6. 本時の学習を振り返る ・友達と話して気付いたことをワークシートに書く。	○振り返りの観点を掲示し、何を書けばよいか明確にする。 ○学習計画を基に、次時の活動の予告をする。		ワークシート

(3) 板書計画 (ICT機器活用も含む)

【モニター】



【黒板】



学習計画

五	四	三	二	一	うみへのながいたび がくしゅうけいかく
すきなばめんを としょじつに けいじする	しょうかい文を かく	すきなばめんを しょうかい文を かくために えらぶ ✕モを かく	『うみへのながいたび』をよむ 「だれが」「なにをした」かを たしかめる	かみしばいを見る がくしゅうけいかくを たてる	

(1) うみへのながいたび

いまえ よしとも
おはら れい・ウエインリンチ しゃしん

（ ） 白くまの きょうだいだ。
（ ） うまれてから ずっと
すこして きた あなの なかと くらべて、ここは
なんと あかるい ことか。ふたりの あたまの
上には、ぬけるような 言い （ ） が
ひろがって いる。
見わたす かぎり ひろがる ゆきのはらの
白さが、まぶしすぎる。
それでもふたりは、目を （ ） に見ひらいて、
はじめての そのの せかいを ながめて いる。
いくら ながめていても、あきないぞ……。

【おすすすめポイント】

だれが
が、
なにをした

①二ばめんの しろくまのことをかんがえて ふきだし
にかこう。



(2)

ふたりとも、 （ ） はりす
くらしい 大ききだった。それが、かあさんのミルクを
毎日 たっぶり のんだから、ぐんぐん そだち、いま
じゃこれ このとおり。
（ふたりが うまれてから、もう （ ） は
たつね。そろそろ 出かけないと……。）
と、かあさんぐまは かんがえて いる。
（ ） に
むかって 出かけるのだ。それは、きたにむかう
ながい たびになる。

【おすすすめポイント】

だれが
が、
なにをした

②二ばめんの しろくまのことをかんがえて ふきだし
にかこう。



(3)

（うみは どっちだったかしら。）
（ ） （ちかくも あるいてここに
やって きて、ふかい あなを ほった。
ふたりを うんだ。） （ ）
（ ） （のめなかつた かあさんぐまは、
そろそろ うみへ もどらないと、
からだか もたなく なる。
ゆきの 上に （ ）
うみからの かぜの 音でも ききとろうと
しているように。
うみからの かすかな かおりでも
かきとろうと して いるように。

【おすすすめポイント】

だれが
が、
なにをした

③三ばめんの しろくまのことをかんがえて ふきだし
にかこう。



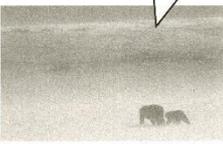
(4)

（そして ある 日、かあさんぐまは ふたりを
つれて （ ） ）。
ゆきのはらを、こまかな ゆきが とぶ なかを
まっすぐに あるく。
（ ） （ほうに
むかって、 （ ） まっすぐに あるく。
「おくれちゃ だめ。しっかり ついて くるの。」
かあさんぐまは、きょうだいを
（ ） ）。

【おすすすめポイント】

だれが
が、
なにをした

④四ばめんの しろくまのことをかんがえて ふきだし
にかこう。



(本時)

うみへのながいたび

なまえ ()

①め

一、すきなばめん

ばめん

二、どんなばめんですか。

だれが

が、

なにをした

三、すきなりゆう

うみへのながいたび

なまえ ()

②が

じぶんのすきなばめんを しょうかいしよう。

() は、

ばめんが すきです。

どうしてかというて、

からです。

ふりかえりの掲示

ふりかえりのあいことば

- ㊦ わかったこと
- ㊧ たのしかったこと
- ㊨ がんばったこと
- ㊩ したこと、しりたいこと
- ㊪ やったこと、やりたいこと
- ㊫ できたこと、できなかったこと

ふりかえりのあいことば

㊬ともだち

よいところ

〇〇と いったた・かいていた

〇〇が すてきだった

がんばっていたこと

にているところ・ちがうところ

